

品格ある京都のまちに、看板はそっと寄り添う。

京都には、山紫水明と称えられる豊かな自然を基調に、それぞれの地域で育まれてきた「景観」という財産があります。

看板もまた、そんな京都のまちの品格ある景観の一部。

目立つことよりも、本物(ほんまもん)としての矜持ともてなしの心を大切にする。それは、お店の信頼を高め、まちの価値を向上させることにつながります。

京都ならではの看板づくり。

そのヒントは、3つの視点にありました。

本リーフレットでは、「京の景観ガイドライン 広告物編」の中から、「1 魅力ある広告景観づくりのために」に書かれている、京都ならではの看板づくりの3つの視点を紹介しています。同ガイドラインでは、そのほかにも、誰からも好ましく見られる広告物デザインのコツから、具体的な規制基準まで、分かりやすくまとめています。お店の看板デザインを考える前に、ぜひご一読ください。

ガイドラインはこちら >>>

京の景観ガイドライン 広告物編



Contents

1 魅力ある広告景観づくりのために

京都ならではの魅力ある広告物をつくるために欠かせない、3つの視点をまとめました。

2 デザインの作法

少しの工夫で伝わりやすさと好感度をぐっと高める、具体的なデザインのコツを紹介します。

3 広告物ごとの配慮事項

壁面看板、のれん、デジタルサイネージなど、種類ごとに、配慮すべきポイントを紹介します。

4 条例による規制

美しい景観を守るための最低限のルール。条例で定められた「守るべき基準」を説明します。

5 広告物に関する制度

広告物の許可制度、業登録制度、優良な屋外広告物を対象とした支援制度を説明します。

6 安心・安全な屋外広告物

企画時の素材選びから設置後の日常点検まで、安全管理で配慮すべきポイントを説明します。



発行/京都市都市計画局都市景観部広告景観づくり推進課 TEL:075-222-4136
デザイン協力/国立大学法人 京都工芸繊維大学 中野研究室
令和8年3月発行 京都市印刷物 第072298号



知る。

現地を訪ね、地域の「特性」を知る。

人々が大切にしているもの

個性的な地域がモザイク模様を織りなす京都。
豊かな自然、積み重ねられた歴史、日々の暮らし。
それぞれの地域に現れる「景観の特性」を知ることが
スタートです。
現地を訪れ、隣り合う広告物や建物の佇まい、そして
地域の人々が大切にしているものを感じ取ってください。

合合わせる。

その慎み深い姿勢

品格ある町並みを大切にしてきた京都。
大きさや強い色で遠くから目立たせる看板ではなく、
周りへの心づかいが感じられる「控えめで上質な看板」こそが、
京都では美しく際立ち、訪れる人の好感を呼びます。
町並みを尊重するその慎み深い姿勢が、地域の人に長く
愛され、あなたのお店への「信頼」と「愛着」を生み出します。

控えめであること。それが、京都での「存在感」になる。

魅せる。

「本物(ほんまもん)の感性」と
「もてなしの心」で惹きつける。

遊び心や心づかい

ひらかれたまち柄に支えられた創意工夫ともてなしの
心を強みとする京都。
歴史と伝統を伝えるだけでなく、遊び心や細やかな
心づかいに彩られた、京都ならではの看板をデザイン
してください。
本物(ほんまもん)という矜持に支えられた「魅せる」
看板は、まちに深く根づき、長く愛され続ける
「シンボル」になっていきます。

